

雲の上にはいつも

【No.14】藤城小学校 校長室より（不定期刊）

年齢のせいか、すこぶる朝が早い。先日、早朝のニュース番組の中で放映された吹奏楽部員たち。ほんの数分間の映像だったが、これはきた。北海道旭川商業高校吹奏楽部員によるテレワークでの合唱動画である。風潮に反して、ほとんどYouTubeを視聴しない私ではあるが、見た。それも何度も。（「『夜明け』～旭商吹奏楽部」というタイトルの6分余りの動画です。興味ある方は検索してご覧ください。）

今、私たちにできること それは「輝くこと」！

新型コロナウイルスにより今年の全国吹奏楽コンクールは中止。なおかつ、みんなで集まって練習することさえできない。あたりまえだった生活があたりまえではなくなってしまった毎日。短い映像の中では触れられていなかったが、人知れず下唇をかみしめた日々が続いたであろう。そんな彼女ら、彼らは、同校の吹奏楽部の先輩が作詞・作曲した「夜明け」という合唱曲に希望を見いだし背中を押される。動画を編集した女子部員は言う。今、私たちにできること。それは「輝くこと」なんだと。だから今、私たちにできることを精一杯やるんだと。そうして出来上がったのが、この動画だ。静かに広がる共感の輪は、新たなコラボ動画も生み出している。

初めて触れたこの「夜明け」という合唱曲を調べてみた。全国大会の常連校である旭川商業高校吹奏楽部では、毎年卒業していく部員が部に何かを贈る習慣がある。今から21年前のこと。その年は顧問の先生と生徒との折り合いがとても悪く、互いにぶつかり合う毎日から、吹奏楽部を辞めてしまった生徒も多かったそうだ。部がそういった雰囲気なので、顧問の先生は「今年は卒業生からの贈り物もないだろう」と思っていた。ところが、「私たちの学年は人数も少なくてもお金も集まらないからみんなで曲を作りました」と言って卒業生が卒部式の時に突然披露したのが、この「夜明け」という曲だった。

♪ あなたに会えて自分が見えた / いつもあなたが包んでくれた その大きな心で / 前が見えなくなった時
あなたが希望をくれた / 逃げ出したくなった時 あなたが勇気をくれた

今 私ができること それは輝くこと / あなたがくれたこの翼 / 夜明けの光を浴びて
明日に向かって輝くから / これからもずっと 見守っていて

作詞は3年生が一人ずつ言葉を持ち寄り、作曲は部員の中でもひととき豊かな音楽性のあった生徒が担当した。顧問の先生に気づかれないよう、朝や放課後に校舎の片隅で秘密の練習を繰り返す。そして卒部式当日。生徒一人ひとりの心から溢れ出た歌詞と美しく心に響く旋律に、顧問の先生は感動を隠し切れなかったという。

今できることを精一杯やること それが「輝くこと」！

改めて思う。コロナの影響で様々な制約が多い中、今できることを精一杯やること、それが輝くこと。ならば、藤城小学校の子どもたちはどうだ？輝いているのか？ご心配なく。輝いていますよ。毎朝、そんな姿を見せてもらってます。約束どおりマスクを付け、並んで登校する姿。ときおり後ろを振り返っては小さな1年生を見守る上級生。今できることを、ただ淡々とやっている。カッコいいですよ、藤城の子どもたち。そしてまた、そんな子どもたちの姿は、そっくりそのまま家庭や地域の姿なのでしょう。

同じ方向を向くことの大切さ



向き合う。自分と向き合う。子どもと向き合う。この「向き合う」という表現、実にいろんな大切な場面で使われてきました。しかしながら、あまりに「向き合う」ことを強調しすぎると、自分も相手も「しんどく」なってくることがあります。

もちろん、「逃げてはいけない」のですが、そんなときは意識を変えて、『同じ方向を向くこと』を心がけてみてはどうでしょうか。

長い臨時休業から通常授業に戻って、まだ2週間。目の前にいる子ども自身にも様々な戸惑いがあるはず。そんな我が子に「向き合う」ことを迫るよりも、『同じ方向を向くこと』で自然と生まれる安心感や意欲もあると思うのです。そう、コロナ対策でも対面は避けますから。

あるんだけどないもの？ それは...

なぜなぞみたいですが、なぜなぞではありません。

「先生！プールはあるんですか？」と尋ねてくる子ども。「ん？あるよ！陸橋の上から毎日見てるでしょ！プールはなくなるんないよ。でも、プールでの水泳学習については、今年はないんだ。残念だけど。」

もちろん、こんな意地悪な応え方はしていません。きれいにリニューアルされたプールに入れないなんて、われわれ教職員も大きなショック。特に6年生はとっても楽しみにしていたでしょうし。せめて、完成直後の美しいプールの写真でも見て——、いや、傷口が広がるだけか。

とってもつらい、今年度のプール学習の中止です。

